

# 令和6年度 港区立港南幼稚園 経営計画

港区立港南幼稚園  
園長 村上 恭子

## 1 教育目標

人権尊重の精神に基づき、家庭・幼稚園・地域社会が連携して、幼児の健やかな心と体を育み、集団生活の中で主体的に行動することができるよう、次の目標を設定する。

○元気な子ども ○思いやりのある子ども ○よく考える子ども ○力を合わせる子ども

## 2 目指す幼稚園像

豊かな関わりのある幼稚園  
～ともだちいっぱい えがおいっぱい こうなんようちえん～

『人・もの・こと』との様々な関わりの中で、幼児が直接体験を積み重ねていき、豊かな、幼児にふさわしい園生活を（笑顔で）送ることができるよう、豊かな関わりのある教育の推進を図る。

- (1) 幼児が様々な人・もの・ことと関わりながら、多様な体験を積み重ねて豊かに育つ幼稚園
- (2) 教師一人ひとりが力や持ち味を発揮し、互いに学び合う教師集団として、豊かな関わりのある『港南幼稚園の教育』を協働して推進する幼稚園
- (3) 保護者が幼児理解を深め合いながら関わり合い、子育ての楽しさを実感できる幼稚園
- (4) 地域の人々・幼児・児童・生徒との豊かな関わりを大切にし、その教育力を園教育に生かす幼稚園

## 3 幼稚園経営の基本姿勢

- (1) 幼児一人ひとりを多面的かつ継続的に理解するように努め、温かく愛情ある指導に努める。
- (2) 家庭と連携し、幼児が基本的な生活習慣を身に付けることができるようにする。幼児の意欲・関心・態度を育み、主体的に遊びや生活が展開していくようにする。
- (3) 健康な心と体を育むような経験ができるような環境や機会を工夫していく。
- (4) 幼児が集団生活を通して互いのよさや違いを認め合い、自己を発揮しながら協同する体験を積み重ねられるようにする。様々な体験を通して規範意識や道徳性の芽生えを培うようにする。
- (5) 特色ある教育活動『人・自然・本とかかわる』活動を推進し、幼児の豊かな心を育てる。
- (6) 安全・安心な園生活を基本とし、教職員の危機管理意識を高め、幼児の安全確保と事故防止に努める。また、幼児が身の回りの危険の回避方法や災害時の行動など、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付けられるようにする。
- (7) 教職員が自分の持ち味やよさ、キャリアを生かして、やりがいと使命感をもち、連携・協働して職務に取り組む。
- (8) 様々な機会や幼稚園ホームページ・X（旧ツイッター）・掲示物・手紙を通して幼稚園の教育内容を公開、発信したり、いつでも話し合えるようにしたりして保護者との信頼関係を築き、幼稚園と保護者が連携して教育を進めていけるようにする。
- (9) 地域に開かれた幼稚園として、保育園との交流、地域の人々との交流や未就園児保育等の実施を積極的に行う。

- (10) 行事等の保護者の感想や学校関係者評価、学校評議員会等での意見を真摯に受け止めるとともに、教育活動実施後の反省を踏まえて改善を図り、改善点を保護者や学校評議員などの地域協力者に報告する。

### 3 中期的目標

- ①幼児期に育みたい資質・能力に沿って、幼・小中一貫教育をさらに推進していく。

幼稚園の教育で大切にする体験を幼児が積み重ねることができる保育実践を目指す。その上で、幼稚園で育まれた資質・能力を小学校へ引き継ぎ、幼小で幼児の育ちを共有していかれるようにする。

- ②既存の園舎及び校庭側園舎の安全管理を十分に行う。

平成30年度から行われてきていた2つの園舎での生活を令和5年度より既存の園舎のみの生活に戻した。校庭側園舎は、港区放課GO→クラブや会議室としてPTA活動で利用している。校庭側園舎の管理も含め全教職員による安全点検、園長・主任による巡回を十分に行っていく。緊急時の伝達の工夫も必要である。

- ③専門性の向上を目指し主体的に職務に取り組む教師集団を育てていく。

若手教員が多い組織の中で、各教員が園運営に参画意識をもって自らの職務における目標を明確にもち実現に向けて努めることができるように、一人ひとりの教員の実態や取組を捉えながら助言をしていく。チーム港南として、皆で育ち合っていけるようにする。

### 4 今年度の取組と方策

- (1) 幼児が様々な人・もの・ことと関わりながら、多様な体験を積み重ねて豊かに育つために

○幼児が主体的に関わっていけるような環境や、言葉掛けを工夫する。

○自然の変化を見逃さず、また、計画的に遊びや生活に取り入れて、様々な感覚を使った直接体験を通して豊かに感じる中で、体験が学びにつながるようにする。

○豊かに育っていくための心身ともに健康な体づくりを意識し、運動遊びや戸外での遊びを取り入れる。

○学級、同学年、異学年の幼児との関わりの中で共に育ち合えるようにする。

○幼稚園ネイティブティーチャーの配置（週3日）に伴い、幼児の国際理解教育の推進や英語獲得の芽生えを培えるよう、計画的に行っていく。

○幼児の遊びの中での興味・関心、学びがより深くなっていくような、ICTの活用を工夫し、実践する。

○地域の人々との豊かな関わりや、保幼小中との互惠性のある交流活動を実施する。

○『小学校入学前カリキュラム』等を活用し、小学校への円滑な接続を意識した教育活動を実施する。

○日本の文化や外国の文化に触れ親しむ教育活動を実施する。

○日本赤十字社と連携し、子ども赤十字活動を実施し、心の教育を進める。

- (2) 教師一人ひとりが力を発揮し、互いに学び合う教師集団として豊かな関わりのある『港南幼稚園の教育』を推進するために

○情報を共有し、報告・連絡・相談を確実にし、全教職員が協力・連携して港南幼稚園の教育のために協働しようとする気持ちを高める。

○園内研究（令和6年度研究主題『見つけよう！やってみよう！～幼児の主体性を育む環境構成の工夫～』）を計画的に充実させると共に、研修に積極的に取り組む。また、教員同士の日常の中でも学び合い、資質の向上を図る。

○幼稚園教育要領、指導計画に基づいた指導、週日案での確実な計画・実施・反省・評価を行う。

○保幼小中の相互理解・交流・連携の充実や、港南アカデミーの研究の推進を図る。研究保育・研究授業・研究協議を通して、異校種の教員が互いに学び合い、幼・小中一貫教育を実施する。

- (3) 保護者が幼児理解を深めながら、子育ての仲間として関わり合い子育ての楽しさを実感できるように

○保護者会や保育参観、保育参加、学級懇談会、園だより、学級だより、ホームページ、X（旧ツイッター）

掲示物等を活用し、教育活動の発信に努める。

○親子活動や保育参加を実施し、親子で触れ合ったり、一緒に活動したりすることから、保護者が幼児の発達や子育ての楽しさを実感し、園や保護者同士がつながりながら共に子育てを楽しめるようにする。

○保護者が協働する活動を支援する。

○未就園児の会『かもめっこデー』『おひさまクラブ(子育てサポート保育)』による子育て支援を実施する。

○講師による『心の子育て講座』や幼稚園カウンセラーによる『子育て相談』等で、保護者の子育てを支援する。

(4) 地域の人々との関わりを大切にして、その教育力を園教育に生かすために

○幼児・保護者・教員が地域行事に積極的に参加し、地域との関わりを大切にしていく。特に、港南地域連合会や防災ネットワークとの連携を大切にしていく。

○『書道の会』『お茶会』『空手の会』など、地域の人々の力を生かした豊かな遊びや生活づくりを推進する。

○地域の自然や施設を活用した教育活動を推進する。

(港南小学校・港南中学校・東京海洋大学・港南図書館・港南緑水公園 等)

#### ★今年度の重点的な取組目標と方策

①幼児が主体的に遊びや活動に取り組むための適切な環境の構成を通して、夢中になって遊ぶことや身近な人と関わることを楽しむ幼児を育てる。

・週日案の記録などで、幼児の実態を的確に捉え、ねらい・内容に対する具体的な方策を明確にし、環境の構成や援助を見直し、共通理解する。

②主任と各学年主任との連携を図り、計画的組織的にOJTを推進しながら、若手教員を含む全教員の指導力及び園務の遂行力を高める。また、効率的な園務遂行に向けて改善することで、教職員のワークライフバランスを充実させる。

③未就園児の会『かもめっこクラブ』と、子育てサポート保育『おひさまクラブ』円滑な運営をさらに図る。

・未就園児の会を原則週1回行い、活動を工夫したり、在園児保護者のサポートを得たりして、継続して参加する親子の数を増やす。未就園児の会で園の教育活動を知ったり、教育内容を具体的に説明したりする機会をもち、園児獲得を目指す。

・子育てサポート保育での幼児の実態や使用場所、通常保育後の幼児の動きなどについて教職員が共通理解し、円滑に実施できるようにする。長期休業中の預かり保育事業にも区内の幼稚園と連携し取り組んでいく。

④保護者や地域の人々に本園の教育活動を理解してもらうように努める。

・新たな体制でも、今まで築かれた関係の良さを生かしながら、さらに本園の教育活動を理解を得るよう力を尽くす。

・各教員がそれぞれの担当職務の中で本園の教育活動の記録を適時行いながら、地域や保護者に向けて効果的に発信する。特に幼稚園やホームページ・X(旧ツイッター)の内容のさらなる充実を図り、ブログについては学年や学級での更新を行う。

⑤保育環境と園務に関わる環境の改善を進める。

・備品、遊具、教材等の確認及び計画的な購入等を進める。

・職員室内の文書等の整理を進め、働き方改革につながる環境の工夫をする。

⑥新規の用務業務委託業者との連絡を密にし、用務業務として依頼する内容や仕事量、効率的な打ち合わせ方法等を構築していく。教員の業務軽減にさらにつながるようにしていく。また、園務支援システムの有効な活用をしていけるよう、工夫する。